

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向  
平成 26 年 8 月

○ 概要

(1) 平成 26 年 8 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,541 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲1.2%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,074 円（伸び率 0.2%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,352 億円（伸び率▲1.2%）、薬剤料が 4,179 億円（伸び率▲1.2%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 554 億円（伸び率 17.6%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	5,693 円	2.83 種類	23.6 日	85 円
伸び率（%）	▲0.3	+0.0	+2.2	▲2.5

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬 3,477 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲60 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 875 億円（伸び幅▲73 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 14 億円（総額 600 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,477 億円 （▲60 億円）	21 循環器官用薬 （875 億円）	11 中枢神経系用薬 （600 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（474 億円）
0 歳以上 5 歳未満	28.7 億円 （▲3.1 億円）	44 アレルギー用薬 （11.9 億円）	61 抗生物質製剤 （7.9 億円）	22 呼吸器官用薬 （3.6 億円）
5 歳以上 15 歳未満	65.5 億円 （▲1.1 億円）	44 アレルギー用薬 （28.7 億円）	11 中枢神経系用薬 （11.6 億円）	61 抗生物質製剤 （9.3 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,232 億円 （▲43 億円）	21 循環器官用薬 （273 億円）	11 中枢神経系用薬 （267 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（176 億円）
65 歳以上 75 歳未満	881 億円 （+9 億円）	21 循環器官用薬 （267 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（140 億円）	11 中枢神経系用薬 （105 億円）
75 歳以上	1,270 億円 （▲22 億円）	21 循環器官用薬 （333 億円）	11 中枢神経系用薬 （216 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（153 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,074 円（伸び率 0.2%）で、最も高かったのは石川県（11,167 円（伸び率▲1.1%））、最も低かったのは佐賀県（7,675 円（伸び率 1.4%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは鳥取県（伸び率 2.3%）、最も低かったのは奈良県（伸び率▲1.5%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 554 億円（伸び率：17.6%、伸び幅 83 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注</sup>	55.6%	+8.9%
薬剤料ベース	13.3%	+2.1%
後発品調剤率	59.5%	+6.1%
（参考）数量ベース（旧指標）	36.7%	+6.1%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕 で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+17.6%	+28.3% （5 歳以上 10 歳未満）	+6.3% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	13.3%	14.3% （65 歳以上 70 歳未満）	7.5% （10 歳以上 15 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	492 億円 （+69 億円）	21 循環器官用薬 （137 億円）	23 消化器官用薬 （94 億円）	11 中枢神経系用薬 （57 億円）
0 歳以上 5 歳未満	3.35 億円 （+0.78 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.22 億円）	61 抗生物質製剤 （0.93 億円）	44 アレルギー用薬 （0.64 億円）
5 歳以上 15 歳未満	6.15 億円 （+1.49 億円）	44 アレルギー用薬 （2.68 億円）	61 抗生物質製剤 （1.41 億円）	22 呼吸器官用薬 （0.99 億円）
15 歳以上 65 歳未満	166 億円 （+18 億円）	21 循環器官用薬 （43 億円）	23 消化器官用薬 （28 億円）	11 中枢神経系用薬 （23 億円）
65 歳以上 75 歳未満	129 億円 （+20 億円）	21 循環器官用薬 （45 億円）	23 消化器官用薬 （25 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（15 億円）
75 歳以上	187 億円 （+29 億円）	21 循環器官用薬 （50 億円）	23 消化器官用薬 （41 億円）	11 中枢神経系用薬 （26 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	908 円	1,244 円（岩手県）	726 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+19.2%	+29.2%（秋田県）	+12.3%（沖縄県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	55.6%	69.6%（沖縄県）	45.8%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	13.3%	17.3%（鹿児島県）	10.3%（徳島県）
後発医薬品調剤率	59.5%	72.0%（沖縄県）	52.4%（徳島県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	36.7%	48.2%（沖縄県）	30.8%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成26年8月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。